

～ 尿検査 ～

尿糖

血糖値が高くなると尿に糖が排泄されます。なお、血糖値が高くなっても体質的に尿糖が出やすい人を腎性糖尿といい、病気の心配はありません。

考えられる疾患・受診科

陽性：糖尿病、腎性糖尿、肝疾患、妊娠やステロイド剤の長期服用
《内科》

尿蛋白

腎臓に異常があると、血液中のたんぱく質が尿中に排泄されます。尿中のたんぱく質を調べることで腎臓病を発見する手がかりになります。運動後、発熱時、月経の前後などで尿たんぱくが増加して陽性になることがあります。この検査だけでは腎臓病と診断できないため、尿沈渣や血液検査も必要となります。

考えられる疾患・受診科

陽性：糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、尿路結石、腎盂腎炎、妊娠中毒症
《内科》

尿潜血

尿中に血液が混入しているかを調べる検査です。肉眼では分かりにくい微量の血液も発見できます。

考えられる疾患・受診科

陽性：糸球体腎炎、膀胱炎、尿道炎、腎盂腎炎、腎臓がん、膀胱がん、尿管結石症
《内科》

尿ウロビリノーゲン

肝臓疾患の程度や腸の機能異常を診断します。健康な人にも少量は含まれているため、基準値は疑陽性(±)です。陽性の場合腸の異常を、陰性の場合胆道の閉塞を疑います。採取した尿は時間が経つとウロビリノーゲンが酸化するため、異常がなくても陽性反応が出ることがあります。

考えられる疾患・受診科

陽性(+以上)：肝炎、肝硬変、腸閉塞
陰性(-)：閉塞性胆道疾患、抗菌薬の影響
《内科》

PH

尿中に含まれる水素イオン濃度のことで、尿が酸性かアルカリ性か、そしてそれがどの程度かを調べる検査です。健康な人でも食事の影響を受け、動物性食品過剰摂取後では酸性に、植物性食品過剰摂取ではアルカリ性に傾くとされています。採取した尿は時間が経つとPHが高くなってしまうため、新鮮な尿で検査することが大切です。また、月経中や薬を服用している場合、激しい運動後の場合には検査結果に影響を与えることがあります。

考えられる疾患・受診科

高値(アルカリ性):腎盂腎炎、尿路感染症、嘔吐など
低値(酸性):腎炎、高尿酸血症(痛風)、糖尿病、脱水症状、発熱を伴う病気、低栄養など
《内科》

比重

尿の水分と固体成分(赤血球、白血球、尿酸結晶、細胞、細菌)の比率を調べる検査で、水分摂取量や体調によっても変化します。大量の発汗や下痢などで水分を失うと高値、大量の水分を摂取すると低値になります。採取した尿は時間が経つと濃縮して高比重になってしまうため、新鮮な尿で検査することが大切です。また、月経中や薬を服用している場合には検査結果に影響を与えることがあります。

考えられる疾患・受診科

高値(濃縮尿):糖尿病、ネフローゼ症候群、脱水症状、下痢や嘔吐、大量発汗など
低値(希釈尿):慢性腎炎、急性腎不全、腎盂腎炎、水分の過剰摂取、利尿剤の服用など
《内科》

沈渣

採取した尿を液体と固体に分離し、固体成分(赤血球、白血球、尿酸結晶、細胞、細菌)の量や種類を顕微鏡で観察する検査です。腎臓、膀胱、尿道などの異常を知り、病気の診断に役立てることができます。
薬剤や運動後、発熱時などでも一時的に検査結果に影響を与えることがあります。

考えられる疾患・受診科

糸球体腎炎、腎盂腎炎、膀胱炎、ネフローゼ症候群など
(※含まれている成分によって疾患は異なります。)
《内科》